



第5号  
H18年3月31日

写真: 上下(左) (中央) 内木君コンサートの模様  
(右) 都リハのコンサートホール

## 左手のピアニスト

昨年秋、墨田区の誇る「すみだトリフォニーホール」で、館野泉さんのピアノ演奏を聴く機会に恵まれました。そして、一本の手で紡ぎだしたとは思えないほどの、力強かつ繊細な音楽に驚かされました。館野さんはヘルシンキ在住、約40年間にわたり3000回を超えるコンサートを行ってきた世界的なピアニスト。その彼が4年前に突然、ステージで脳出血に倒れ、右半身の自由を失いました。右手の機能を失うこと、これはピアニストにとってはもちろん致命的なことでした。1年半に及ぶリハビリと落胆の日々。それが、息子さんの届けてくれた左手のためのピアノ曲の楽譜をきっかけに、「左手のピアニスト」として復活。新たな音楽の旅が始まりました。

さて、我らが「左手のピアニスト」は若い内木泰広君。昨年春の交通事故で、右の麻痺と言葉の障害が残りました。12月、初めて自宅に戻り、ピアノを左手で弾いてみました。「うん、弾ける!」、というわけで、この2月、退院記念コンサートを当院ロビーで開催。お母さんの協力も得て、「三手」による演奏となりました(連弾です)。「大きな古時計」、「グノーのアベマリア」、「翼を下さい」などなど。たくさんの患者さんご家族、そして職員も集い、暖かい時間を持ちました。

ほつりハ本号では「作業療法」の特集としました。「手の訓練」に留まらない、都リハのめざす作業療法をお届け致します。

### 東京都リハビリテーション病院運営理念

身体に障害を持たれた方が生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療の推進をはかる。

# 都リハOT室へ ようこそ！



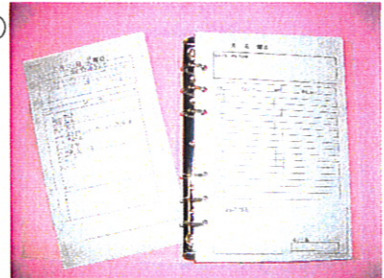
患者さんの作品紹介 上段左から：陶芸・つば、メガネ立て、籐細工・カゴ、パステル画・花火、下段左から：江戸張り・狐面、習字、スタッフ似顔絵

PM 4:00



**家族サポート：家族の絆が患者さんの生命線** 転院予定のKさんのお母さんとMSWの面談に、ベビーカーを押すKさんの妻と合流。家族の協力体制について共に考える(ベビーシッター兼務)。

⑧



PM 3:00

病棟にて、入院時・中間カンファレンス(Dr, NS, PT, OT, ST, 心理, MSW)。今週は6人(1人15分)、終わると全体カンファ。

PM 2:00



**記憶障害：メモリーノートを使いこなすには** ⑧ ⑦  
Sさん(くも膜下出血、記憶障害)。発症後、もの覚えが著しく低下。どこへ行って何をするのか、何をしたのかなど、1日のスケジュールや出来事を確認できるように「メモリーノート」を付ける。定着には確認・声掛け・促し、周囲の援助と繰り返しの練習が必要。

⑦



PM 1:00

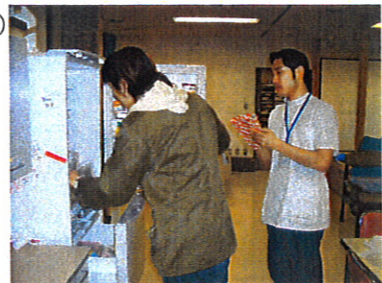
頸損のHさんの電動車椅子が到着。一緒に院内を試乗。⑦

PM 0:30



**住宅改修：やりなおしのないよう**  
家庭訪問を行ない、住宅改修を検討したGさん宅の改造図面がMSW経由で届く。トイレの改造案について担当PTと再度協議。改修後のドア幅について確認の電話を工務店に入れる。

⑥



AM 11:00



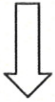
**高次脳機能障害：見えざる障害への対応** ⑥  
失語症と注意力・計算力低下があるFさん。退院後、調理に手間取る、作っている過程でパニックに陥るといった訴えがあり、調理・買物に重点をおいた外来訓練を開始。MSWを通じてケアマネに、家事援助よりむしろ話したり訴えをきく役割をヘルパーに担ってもらうよう依頼。



# ある作業療法士の日記から

都リハでの、作業療法士の一日を追ってみました！

AM6:15



**身辺自立を目指してモーニング・ケア** 写真①  
先週入院したAさん(脳出血)の朝の更衣と整容動作のサポート(モーニングケア)に入っている。手順の混乱があり、一つ一つの動作に声かけが必要。パジャマのゴムがきつい  
ため、ゆるめてもらうよう、家族への連絡を看護師に依頼。



AM 7:30



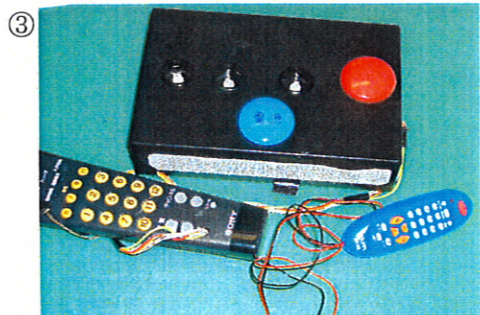
**障害状況に応じた用具の提供** ②③  
昨日調整した頸髄損傷のBさんの自助具(スプーンを手に固定する皮のバンド)と曲がりスプーンの使い勝手の確認に病棟の食堂へ。バンドがややきついとのことで午後にも再調整することに。また、握力のないBさん用に大きなボタンのリモコンを特製。



AM 8:00



**車椅子からずり落ちない為に**  
昨日調子の悪かったCさんの室をのぞくと家族がすでに病室に。今後、車椅子乗車時間を延ばしていくことを伝える。ずり落ち防止用のクッションをOT室から貸し出すことに。



AM 8:30



作業療法科の全員ミーティング。新人3名を加え、総勢17名！

AM 9:00



**復職に向けてのきめ細かな対応**  
外来のCさん(くも膜下出血、記憶・遂行機能障害)と復職に向けての話し合い。職場での過ごし方をタイムテーブルに記入、上司からの指示書のサンプルを次回持参してもらう。MSWIには必要に応じ、職場への連絡を依頼。

AM 9:30

**初外泊の前には必ず家族介護指導** ④

Dさんと奥さんに週末の初外泊を前に、入浴動作の指導。自宅の浴室の段差に設定したOT室の浴槽を使い、一連の動作を行ってみる。この時使用したシャワーイス、バスボードを週末に貸し出せることを伝える。



AM 10:00

**自宅で使える車椅子を選ぶ** ⑤

初外泊から戻ったEさんと娘さんに家での様子を聞く。やはり家のなかでは狭くて車椅子が使えず、ベッド上でほとんどすごしたと。ドア幅、廊下の幅を確認し6輪車か、よりコンパクトな車椅子を調整していく。



## 地域医療連携の会 初開催

平成17年11月14日 午後6時

近隣区の医療機関、区内訪問看護ステーション等を招いて開催した『地域連携の会』は、100名を越す方々の参加をいただき、盛況かつ有意義な会となりました。第1部、当院医師から各診療部のリハビリテーション専門病院ならではの特徴を紹介、ついて講演「災害時医療一望まれる支援と連携」は、白鬚橋病院院長 石原哲氏から臨場感あふれる報告と災害時医療施設としての当院と各医療機関への提言、第2部では交流懇親会が和やかに行われ、会場では看護研究、医療福祉連携室業務、「ほっとりハフォーラム」既刊号などの展示、事業紹介なども行われました。理学療法訓練室や作業療法室、ADL訓練設備などをセラピストの説明で回る施設見学案内も好評。参加の多かった各病院MSWからの転院相談など、具体的な入院生活イメージを想定しながら各場面で活発な意見交換が行われ、「連携の会」にふさわしく、当院への多くの要望と期待がたくさん寄せられました。次回は、ぜひ訓練時間中の見学との希望もあり、今後の『地域医療連携の会』開催の要望やご意見も寄せられています。



## 平成17年度 高次脳機能障害講習会 報告

主催：東京都リハビリテーション病院 高次脳機能障害講習会実行委員会

日時：平成17年12月18日 9時～16時 場所：KDDI ホール

平成14年度より始まった東京都の「高次脳機能障害者社会復帰支援マニュアル策定事業」は、平成17年度をフォローアップとまとめの1年として取り組んできました。1年目が休職者、2年目には失職者、3年目には未就労者の就労にターゲットをしばりながら、それぞれの方法論を追求してきました。この間、都内23区のほとんどの地区に障害者の就労を支援する部門が立ち上がっています。当日は135名の参加があり、内訳は行政機関(33)、医療機関(31)、のほか、作業所、就労支援事業所、公共職業安定所といった現場からの参加も目立ちました。今回の講習会では成人休職者、成人失職者、未就労者への対応の事例を報告しましたが、なかでも若年の対象者は受傷後8年から14年も経過し

ており、10年前後も家族以外の人間関係をほとんど持つことなく日々を送らざるを得なかったケースの現実も浮かび上がりました。また、就労以前の問題として、社会適応能力を身につける場が必要であるにもかかわらず、高次脳機能障害の受入れ経験がないということでもなかなか既存の施設では対応してもらえないという実態もありました。しかし成人失職者への対応事例では、発病後半年で当院外来を訪れ、約半年の外来訓練の後に、高次脳機能障害者の就労支援は未経験だった区の障害者就労支援センターの協力が得られたケースもありました(福祉的就労、新たな職での3ヶ月のトライアル雇用から本採用)。都リハではこれまでの経験を生かし、各地域との連携を築きながら、高次脳機能障害者の社会復帰支援を継続していきます。なお、刊行予定の報告書では、3年間の経過と総括が盛り込まれる予定です。

### 絵日記&エッセイ

「里絵のこころ絵日記」が出版されました!

ほっとりハ第2号でご紹介した関根里絵さん雑誌「清流」に連載された絵日記が好評で素敵な一冊にまとめられました。里絵さんが心に感じたままの絵日記です。たくさんの方にご覧いただきたいと思います。

里絵さん語録から：

- ・「悩まないこと、これも私の障害らしいでも、これが障害だとしたら、とても良い障害だね。感謝・感謝!
  - ・2本足だけど、立つレッスンバンド。杖とて3本足だけど、掛けちゃうんだから私の方がすごいもん! 歩くのはたいいんなんだから。
- 季節の一句： 歩行器に腰かけて行くさくらかな



### せきね りえ

昭和45年東京都生まれ。金融機関勤務のち、職業訓練校でレタリング及びデザインを学ぶ。ポップ制作の仕事に携わりフリーとしても活躍。平成12年、交通事故に遭い身体と脳に障害を負う。様々なリハビリを続け、身体・脳機能の回復を努める。



A5版 定価1260円  
清流出版 Tel. 03(3288)5405

※医療福祉連携室受付で本書をご覧いただけます。